

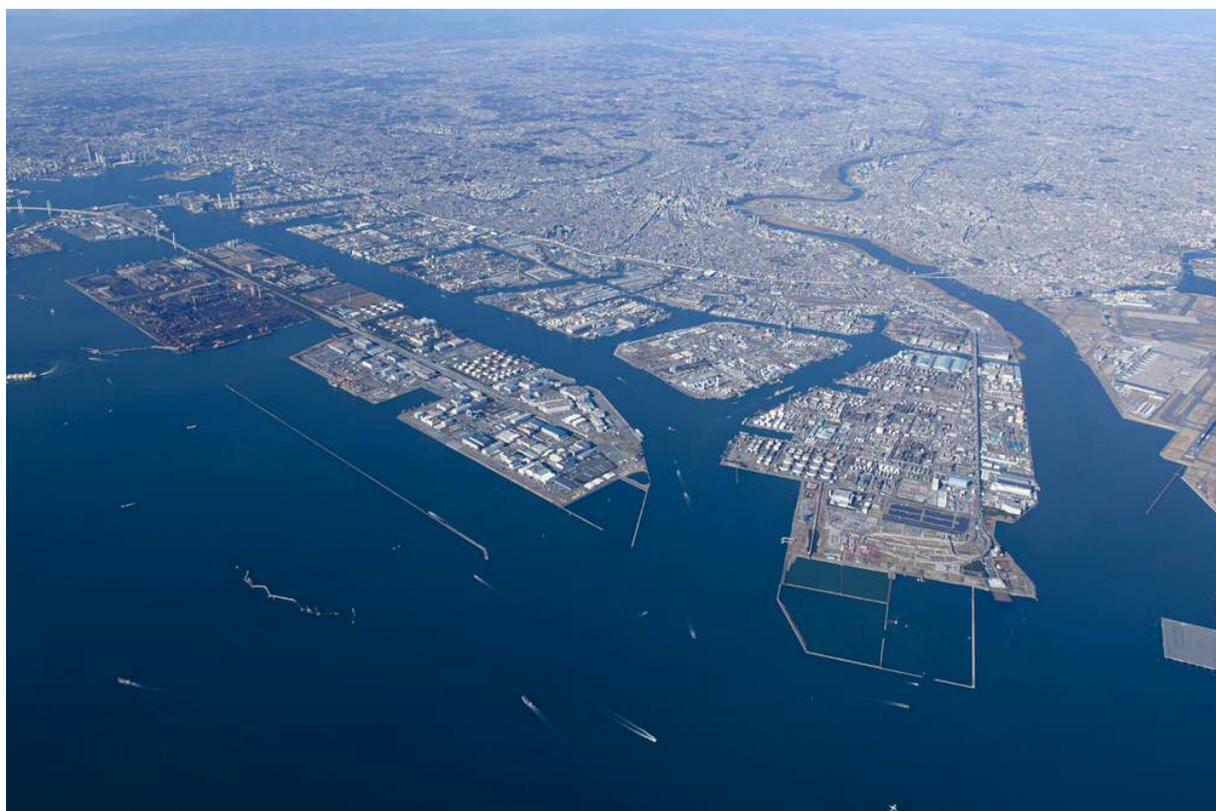
はじめに

江戸時代の頃、東京湾は遠浅の内湾であり、「江戸前」といった東京湾でとれた魚が人々に楽しまれていた等、自然豊かな海でした。その後、都市化・工業化が進み、環境汚染が深刻となり、海の生き物は激減してしまいました。現在は、環境保全の取り組みが進み、東京湾には様々な生き物が戻りつつあります。

川崎市では、健全な水循環の確保、良好な水環境の実現を目指して、平成24年10月に「水環境保全計画」を策定しました。本計画では、水量、水質、水生生物、水辺地の4つの構成要素を総合的に捉えた施策を取りまとめており、「人と水とのつながりが回復され、市民がやすらぎ、安心できる水環境」の実現に向け、日々、施策の推進に取り組んでいます。

今回、環境局では平成23年度から平成26年度にかけて川崎港にある公園の周りの海に住む魚や底生生物の調査を行いました。川崎港は工業地帯に位置し、毎日、大小さまざまな船が入港している埋立港です。このような環境の中でも、たくましく生きる生きものが数多く確認されました。また、調査した場所によって海の中の様子が異なり、生息する生きものにも変化が見られました。

本冊子は調査した結果について、生きものの写真やイラストを多く用いて分かりやすくまとめたものです。環境教育やレジャーなど、多くの場面でこの冊子を活用いただき、川崎港に住む生きものに少しでも興味を持っていただけたら幸いです。



空から見た川崎港（川崎市港湾局 H.P.より） 平成27年1月撮影